医療従事者の需給に関する検討会 第32回　医師需給分科会	資料3
令和2年1月29日	

海外医学部を卒業した医師への対応方針

海外医学部卒医師について今後の方向性

前回までの議論

○ 将来の医師需給バランスを考える上で、海外医学部卒の医師数の将来的な伸びを、反映させる必要がある。

○ 諸外国のように海外医学部卒医師に制限を加えるべきではないのではないか。

○ 日本の医師国家試験受験を考慮している人数の把握が必要（日本人で海外の医学部に在籍している学生数を含め）。

○ 海外医学部に在籍し、日本での臨床実習を希望しているが、実習先を探すのに苦労している（医師国家試験改善検討部会より）。

方向性

○ マクロ需給推計の医師供給数に海外医学部卒の医師数の将来的な伸びを反映させる。

○ 日本の医師国家試験受験を考慮している者を登載するシステムを構築し、対象者に厚生労働省のホームページを通じて登録を促すことで、人数を把握するとともに、実習先やマッチングの手続き等に必要な情報を提供することとしてはどうか。

○また、医師偏在対策に資するよう、医師少数県で臨床実習やマッチングが可能となるよう調整してはどうか。

海外医学部卒医師数の増加について

医療従事者の需給に関する検討会
第31回　医師需給分科会
令和1年11月27日
資料２

現状

○ 海外医学部卒業の医師は徐々に増加傾向であり、直近の2018年の医師国家試験合格者数は95名であり、全合格者数の1%に相当する。

○ 日本人で東ヨーロッパの医学部卒医師の数が増加してきている。

課題

○ 国内医学部についてはマクロ需給推計の結果を踏まえて、各都道府県の地域枠に係る臨時定員の設置を厳密に行っている中、海外医学部卒医師数の増加が、今後、医師の需給、現行の偏在対策に影響を及ぼしうると考えられる。

方向性

○ マクロ需給推計の医師供給数に海外医学部卒の医師数の将来的な伸びを反映させてはどうか。

○ 諸外国の例を参考に、海外医学部卒医師への対応についてどう考えるか。